二〇一八年度　早稲田大学　文学部　学士入学試験問題
アジア史コース

【　　】

【科目名：　中国古典語（漢文）

次の『史記』陳涉世家の文を読み、①その内容を要約し、②文末の「王侯将相寧有種乎」を書き下し文にし、③この言葉に現れた当時の大きな社会変化について述べなさい。

※解答は別紙（縦）横書）

陳勝者、陽城人也、字涉。呉広者、陽夏人也、字叔。陳涉少時、嘗与人傭耕、輟耕之壟上、悵恨久之、曰、「苟富貴、無相忘」。庸者笑而応曰、「若為庸耕、何富貴也」。陳涉太息曰、「嗟乎、燕雀安知鴻鵠之志哉」。

二世元年七月、発閭左適戍漁陽、九百人屯大沢郷。陳勝・呉広皆次当行、為屯長。会天大雨、道不通、度已失期。失期、法皆斬。陳勝・呉広乃謀曰、「今亡亦死、挙大計亦死、等死、死国可乎。陳勝曰、「天下苦秦久矣。吾聞二世少子也、不当立、当立者乃公子扶蘇。扶蘇以数諫故、上使外将兵。今或聞無罪、二世殺之。百姓多聞其賢、未知其死也。項燕為楚将、数有功、愛士卒、楚人憐之。或以為死、或以為亡。今誠以吾衆詐自称公子扶蘇・項燕、為天下唱、宜多応者」。呉広以為然。（中略）

呉広素愛人、士卒多為用者。将尉醉、広故数言欲亡、忿恚尉、令辱之、以激怒其衆。尉果笞広。尉剣挺、広起、奪而殺尉。陳勝佐之、并殺両尉。召令徒属曰、「公等遇雨、皆已失期、失期当斬。藉弟令毋斬、而戍死者固十六七。且壮士不死即已、死即挙大名耳、王侯将相寧有種乎」。

受験番号					
氏　名					

二〇一八年度　学士入試

アジア史コース

採　点　欄

（裏面へ）

1/2

2/2